

令和5年 第7回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和5年7月21日（金） 午後1時00分

2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
高橋玲央 学校教育係長

5 開 会 午後1時00分

6 令和5年第6回教育委員会定例会及び第1回教育委員会臨時会会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

舟山委員、一盃森委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告

報告第9号 令和5年第2回大河原町議会定例会（6月会議）の結果について

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

報告第10号 工事請負契約の締結（大河原中校舎裏屋外環境整備工事）について

教育総務課長より説明。

一盃森委員 | 大河原中学校校舎裏屋外環境整備工事について、テニスコート4面をフェンスで囲むという認識でよろしいか。桜武館入口の階段とフェンスの間が資料では狭く見えるので心配である。例えば、階段の南側をスロープにした方がよいのでは。学年集会で使用すると200人近い生徒の出入りがあるので厳しいのではないかと考える。考え方を伺いたい。

櫻田教育総務課長 | 議会の議員からも同様の質問があった。現地を実際確認していただき、距離などを測って、「問題ない」との理解を得ている。しかし、実際に施工してみても問題が生じた場合は、変更も考えられると思う。

丹羽委員 | 照明が10基設置されるようだが、夜間も使用可能となるのか。

櫻田教育総務課長 | 夜間の通行のための照明となっており、夜間のテニス使用は想定していないものであります。

(2) 専決事務報告

報告第2号 専決処分の報告について

(損害賠償の額及び和解)

(令和5年度大河原町一般会計補正予算(第3号))

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

8 議 事

議案第28号 令和6年度使用教科用図書採択調整案について

教育総務課長より説明。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第29号 令和5年度学校給食実施計画について

教育総務課長より説明。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告(校長会資料による報告)

1 「ICT教育の効用」(佐藤学)

ICTを使いすぎると学力低下につながるという調査結果が出ている。電子・紙・黒板・ノートなど合わせて使用していくのが大事である。

2 算数科におけるプログラミング教育の成果(笠井健一)

プログラミング教育について、各学校での取組状況は調査中だが、算数・理科などで実施している。各校ペーパーを活用。新しく学習指導要領の内容となったプログラミング教育だが、少しずつ進展している状況。

3 「わかる」ということ

(1) 『ものがわかるということ』(養老孟司)

わかろうとする努力が大事。何度も経験して、共鳴することである。

(2) 『授業を変える 学校が変わる』(佐藤学)

子どもの発言を分かることの意味。正確に認識するだけでなく、情動的に味わうことが大事。共振しないとだめだという。授業をみるとき、共鳴し、共振を意識したい。

(3) 「子供たちが協働的に問題解決するために教師が心掛けること」(笠井健一)

友達の話聞いて分かったと思えばいいのではなく、自分も同じように他の友達に説明できること。もしくは、似た問題に対して、友達の考えで実際に解くことができること。このことが、深い学びに繋がっていく。

4 『主体的に学習に取り組む態度』(田中・三藤・高木)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、結論的には、知識・技能や思考力・判断力・表現力を育成する中で、「粘り強い取組を行おう」とする側面と「自らの学習を調整しよう」とする側面から評価することである。

5 「滞標(みおつくし)」(仙台二高) 大学合格体験記

4「主体的に学習に取り組む態度」での「粘り強い取組」と「自らの学習の調整」がまさに体験記として紹介されている。来年度、当町でも中学生の合格体験記を冊子にしたいと考えている。

6 中学校部活動の休日地域移行について(案)

町教委直営で外部指導者を各学校へ派遣するやり方を取りたい。今後、推進協議会を立ち上げ、外部指導者へ委嘱できればと考えている。

7 校則の運用・見直し(生徒指導提要)

町内2校の校則は過度なものはない。生徒会で見直しもしている。今後、コミュニティスクールで考えていくことも重要。

8 田中博之先生(早稲田大学教職大学院教授)からのメール

田中先生に来ていただき、授業公開や講演をいただく予定。

9 租税教育

租税は大事なことで、児童生徒に税に関する正しい知識を身につけてもらうことを目的とする。

10 その他

各校の研修会、学校運営協議会、事業の様子について資料により説明。

丹羽委員

養老孟司先生、佐藤学先生の話。共鳴。共振。共振＝阿吽の呼吸を感じる。文字や言葉を使わないで心を伝えるような、形にならないものを感じる。共振は教育者にとって、とても大事。生徒とのキャッチボールが苦手な先生もいる。劣等生こそキャッチボールを上手にしてほしい。

	秋田の教育。なぜ凄いのか。親が先生を尊敬しているという。親が子供の教育力を高めたいなら先生を尊敬し褒めてあげるのが大事。
舟山委員	年間評価計画が素晴らしい。ぜひ、活用していただきたい。
	土日の部活動地域移行の件。今後の方向性としては、例えば、金ヶ瀬中学校が部活動少ないので、大河原中学校と合同での部活動可能となるのか。
鈴木教育長	金ヶ瀬中学校の部活の数が限られている。やはり、土日だけは、これからの協議となるが、保護者の理解のもと、大河原中学校の自分のやりたい部活に参加しても良いと考える。ただし、土日だけ。
	平日は学校教育。土日は社会教育でやっていくべきと考える。
	大河原は地域移行に向けた会議も行っており、方向性は定まっている。
一盃森委員	「わかる」ということの佐藤学先生の話。20年以上も前の話であるが、まさにその通りである。実際に先生方は、自分のペースで授業を進めたくなる思いがある。研究授業・参観授業など特にそのような思いがあるが、対話的学びで乗り越えて行かなければならない。
小山委員	ICT教育の話。タブレットの使い過ぎが学力低下を招いてしまう。小さなうちから便利さに気づいてしまうと、自分で辞書を調べるとかが無くなってしまふ。学びの広がりが無くなっていくのを感じる。タブレットやスマートフォンではなく、辞書で調べるのということを、小さなうちから身につけるのも大事だと思う。
	部活動地域移行の話。子どもたちにとっては、今までの顧問の先生から、土日だけ外部指導者での指導となる。顧問と外部指導者での指導方法が違った場合が心配。慎重に進めてほしい。
	より楽しめる形で、いろんな角度から子どもたちを見れるのが良い。
一盃森委員	ICT関係の話。最近、チャットA iのことが出ているが、話題にあったか。
鈴木教育長	文科省からの通知を校長会にて話をしたい。やはり、メリットとデメリットをしっかりと踏まえて使用する必要がある。
一盃森委員	書く問題が多い中、うまく活用できる部分とできない部分があり、使用が難しいところがある。図書館などを活用して、自分で調べて辿り着く、アナログな部分も否定できないと思う。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

学校教育専門監より

「主体的な学び」を実現する授業のあり方について及び年間評価計画について説明。

部活動地域移行のスケジュールについて説明。

丹羽委員	主体的な学び。子どもの心に火をともし。教育と学びに終わりはない。 部活動地域移行。土日は学校を会場にするが、学校教育から切り離しての活動を保護者へ理解していただく必要がある。
一盃森委員	

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和5年8月18日（金）午後1時から開催する。

11 閉会宣言 午後2時50分

令和5年8月18日

署名委員

署名委員